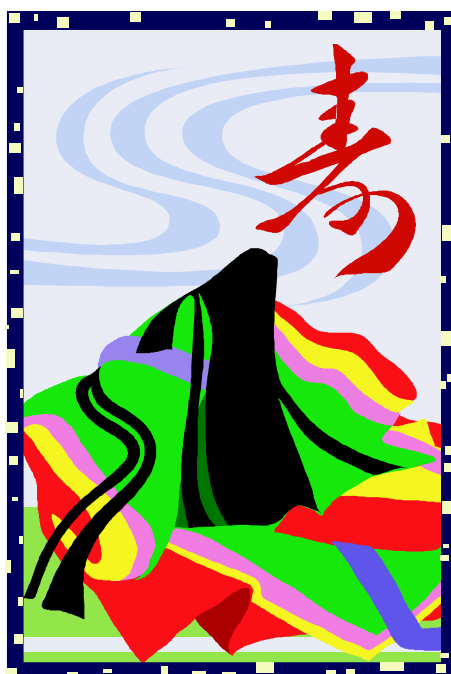


学習院大学図書館所蔵

貴重資料展

第1回

百人一首（かるた）



百人一首

「百人一首」といった場合、最近では多くの人が「かるた」を思い浮かべるだろう。しかし、本来は、100人の歌人の和歌を、一人一首ずつ選んで作った和歌集の総称である。とくに、藤原定家（平安末期～鎌倉初期）が選んだとされる私撰和歌集である「小倉百人一首*」がもっとも有名で、現在、百人一首といった場合は、定家の「小倉百人一首」を指すまでになっている。

「小倉百人一首」は、歌がるたとして広く用いられており、今回の展示品もその中の一つである。江戸時代の画家・尾形光琳が書いたとされる光琳歌留多は、現存している小倉百人一首の中でもっとも豪華とされている。当館所蔵品はレプリカである。

また、詳しい謂れは判然としないが、江戸期に作成された「百人一首歌留多」を2点展示した。絵札も読み札もそれぞれ非常に特徴的である。光琳カルタと比較してほしい。

*小倉百人一首：定家が、京都嵯峨野にある宇都宮頼綱（蓮生）の山荘（小倉山の麓にあったとされる）の障子（襖）の色紙のために染筆したとされるているため、この名で呼ばれるようになった。定家勅撰の百人一首は非常に影響力が大きく、後世に異種百人一首と呼ばれるさまざまなオマージュが発生したため、それらと区別するために現在ではこう呼ばれている。

<参考文献>

請求記号	書名等	配架場所
911.24/33	糸井道浩編. 小倉百人一首を学ぶ人のために. 世界思想社, 1998.10, xiv,303p.	大学図・1F 開架
911.24/55	有吉保監修. 知識ゼロからの百人一首入門. 幻冬舎, 2005.11, 239p.	大学図・1F 開架